大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

# 『俗にマンダリンと呼ばれる漢語の技法』訳注稿(序文から第二章まで)



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 大阪公立大学中国学会<br>公開日: 2024-03-25<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 大岩本, 幸次<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.24729/0002000504 |

# 『俗にマンダリンと呼ばれる漢語の技法』訳注稿（序文から第二章まで）

大 岩 本　幸 次

## 0. はじめに

ホアン・ロドリゲス（1724-1785）らの編纂した文法書『俗にマンダリンと呼ばれる漢語の技法』（*Arte de la lengua chínica, que vulgarmente se llama mandarina*．1789 頃の成書.[1] 以下，“*Arte*”と称す）は，形式や記述の一部においてフランシスコ・ヴァロ（1627-1687）らの *Arte de la lengua Mandarina*（1703 刊）など先行資料を踏襲し，編者が実地に接した漢語を具体的に記述しているもので，後世に一定の影響を及ぼしたとみられるが，関連の研究において内容に言及されることは多くない．本稿では，この“*Arte*”について，スペイン国家図書館（BNE）に所蔵される抄本に依拠して，序文，また発音について記した章の訳注を記し，当時の音韻状況などを知る一つの手がかりとしたい．

上記の BNE 所蔵本においては, 漢語の箇所には発音記号のみが記され, 漢字表記は併記されていないため,[2] 訳出に際して該当すると考え

---

1) BNE 所蔵本の成書年に関しては，編纂協力者である Villanueva が干支の説明において“今年 1789 年の場合，……”などと記すのに基づく．Juan Luis Hernández Hidalgo（2022), ‘*Arte de la lengua chínica que vulgarmente se llama mandarina*: la gramática sínico-hispánica compuesta por los frailes Juan Rodríguez y José de Villanueva.’（Temas Americanistas, 48), p.313，注 3.

2) Agustín González の *GRAMÁTICA CHINO-ESPAÑOLA*（官話撮要, 1915 年刊) 序にマニラ聖アウグスティヌス会修道院史料館所蔵の *“Arte”* に言及し，それが“original”に基づく抄本であり“original”に欠けている漢字表記を有することを記す．関連は不明ながら，Juan Luis Hernández Hidalgo（2022) に *“Arte”* 草稿と目される AGI 蔵 *Arte de la lengua mandarina, propiamente Kūon hóa* の概要を記し，それに拠れば該本では漢語の箇所に漢字表記があるという．

られる漢字表記を［　］内に補足するほか，訳者による種々の補記も同様に［　］内に記すこととする．また，原文については，該書は書影がウェブ上で公開されていて内容の確認が可能であることもあり，本稿では特に必要な場合を除いて原文の記載を省いた.[3)]

## 1. 著者、編者について

著者ホアン・ロドリゲスはスペインのガリシア地方に生まれ，1747年にメキシコの Hospicio de Santo Tomás de Villanueva にて修道誓願を立てた後，1752 年にまずフィリピンに到着し，二年後に伝教師として中国に移動，短期間に詰め込みで中国語を習得して布教活動を始めた.[4)] “中国の礼に関するよく知られた問題”により,[5)] 後述する任務のため信徒を放棄しポルトガルに出発せざるを得なくなるまでの約二十年の間，管区長代理などを務めて布教や著述に成果をあげたという．1775 年頃に欧州へ向け出港，まずマカオ総督の命によりリスボンにてポルトガル国王に謁見し，中国での布教活動や著作刊行の公認および伝教師らの安全確保について清朝皇帝に親書を送ることを求めた．1776 年にはマドリッドで総会長バスケス・バレラに会い，スペイン人伝教師らに対して数々の無理な要求を行うとしてマカオ司教[6)] の権限

---

3) Juan Rodríguez y José de Villanueva, *Arte de la lengua chínica que vulgarmente se la llama mandarina*. Biblioteca Nacional de España, BIBLIOTECA DIGITAL HISPÁNICA. https://www.bne.es/es/catalogos/biblioteca-digital-hispanica

4) “Hospicio”は教会運営の宿泊所．また，ロ氏の誓願に関して，Elviro J. Pérez（1901) *Catálogo Bio-Bibliográfico de los Religiosos Agustinos de la Provincia del Santísimo Nombre de Jesús de las Islas Filipinas Desde Su Fundación Hasta Nuestros Días*.（Establecimiento tip. del Colegio de Sto. Tomás), p.292 には 1749 年にスペインのバリャドリッドで行われたとある．

5) 前出 Elviro J. Pérez（1901) “La célebre cuestión de los ritos chinos……”．所謂「典礼論争」以降，着任先の文化・習俗を尊重し溶け込む活動姿勢が否定される中，種々の深刻な逆風に直面したことを指すとみられる．

6) Alexandre da Silva Pedrosa Guimarães（1772-89 マカオ司教)．教区管理下にない聖職者に市区退去を命じて違反者は禁固刑としたほか，こと細かに規律を定め厳格に教区を統制した．また，母国の意向に沿いローマの頭越しに北

剥奪を請願した．その後，ロドリゲスが中国へ戻ることはなく，スペイン国王カルロス三世から長年の功労に対する褒賞として終生年金が認められて母国に暮らし, 1785 年 9 月 12 日にマドリッドのサン・フェリペ・エル・レアル修道院で生涯を閉じた．“*Arte*”公刊の準備は整っていたものの，作者死去により実現に至らなかった.[7)]

共著者としてその名が記されるホセ・デ・ビジャヌエバ（1734-1794）はカスティーリャ地方の出身, 1750 年にロドリゲスと同じ Hospisio にて修道誓願を立てた後, 1752 年にフィリピンに到着しマガランやタルラックといった地域で活動した．1760 年に中国に渡るが，伝教師排斥の影響を受けマニラに退去し，当地のサン・パブロ修道院で副修道院長や聖具保管係の職務についた．事態収拾の後に中国に戻り活動を続け，その地に没した．“*Arte*”の編纂では，ロドリゲスの仕事を受け継ぐのに適任であるとして指名され，遺稿を校正し，また相当に加筆を行うなど，出版へ向けて種々の内容整理を行ったとされる.[8)]

以下，*“Arte”*序文より見ていくこととする．

## 2. 序文

かの帝国で話される言語について，多くの人は中国人がそれをマンダリン語と呼ぶと信じてきた．だがこのマンダリンという名称が貿易

---

京教区の資産調査また管轄権確保を試み, フランス系を筆頭に耶蘇会士の反発や教区運営の混乱を招いた．“…who was no friend of the fathers”とも評される．Kevin Carreira Soares (2015) *Os Bispos de Macau(1576-1782)*（Coimbra 大学修士論文）, p.285. R.Po-chia Hsia (2015) ‘The End of the Jesuit Mission in China’, *The Jesuit Suppression in Global Context* (Cambridge University Press)，p.112.

7) Cipriano Muñoz y Manzano (1892) *Escritos de los portugueses y castellanos referentes á las lenguas de China y el Japón* (丸善 1941) p.127 に言及する 1765 年の書簡にロ氏が*“Arte de la lengua china”*を執筆したことを記すという．これに拠るならば，この頃に少なくとも原型が出来ていたことが窺える．

8) 著者・編者の経歴等について，前出 Elviro J. Pérez（1901），Cipriano Muñoz y Manzano（1892），のほか，Gregorio de Santiago Vela（1922）*Ensayo de una biblioteca ibero-americana de la Orden de San Agustin*.（Impr. del Asilo de huérfanos del S.C. de Jesús）vol.6, pp.584-587，vol.8, p.229 に拠った．

のため 15 世紀に中国の港に到着したポルトガル人らにより発案され，彼らが王宮の役人をマンダリンたち，またその国の言語をマンダリン語と呼び始めたことを考えれば，先述の人々は自らの誤りに気づくだろう.[9] 帝王に仕える民事や刑事，軍事などの部門の大臣らが使う言語という理由で，より正確にはプレトリアン［執政官］とでも呼ぶべきものをポルトガル人らがマンダリン語と呼んでいた流れに，欧州の国々は追随した．この言語を中国人は“Kuōnhóa”［官話］と呼ぶ．帝政政府の高官らが使う言語を意味する．これは中国で耳にする無数の言語がそこから派生した，母型また原型となる言語である．教養ある人でこの言語を使わぬ者はいない．スペイン王国の各州において，高い教育を受け何らかの学問を修めた人でカスティーリャ語を使わない者がいないのと同じである．以下，他の著作者らに共通する方式を踏襲して，我々はこの中国の母型言語をマンダリンと呼ぶ.

多くがそう考え，他人にもそう思わせようとするほどマンダリン語は難しくない．負担のない気楽な練習問題を伴った適度な計画なら，学び始めの時期に直面する困難をいずれも数カ月の内に克服する．あとはマンダリン語を学びたい者が守るべき方法の確立が残されていようか.［その場合に］文法書の諸規則を指針とすることは果たして必須だろうか．実のところ文法は必須ではないけれども、聖ドミニコ説教者修道会のスペイン人神父フランシスコ・ヴァロ師が考えているように，かなり有用ではある．師は中国の言語に関して極めて博識で，その学殖は今世紀初めに二巻構成で編纂した *Arte de lengua Mandarina* にうかがえる．該書は真に基督教義の使徒精神をもって中国の文字群に説明を加え，不運な中国の人々を魅了する文学的・儒教的で常に気疎い教えの難解極まる陰鬱な誤りに事細かく敏感に反論している.[10]

---

9) 「考えれば」の原文は“reflexan”．古く“reflexionar”の意もあり，いま *Ensayo* vol.6，p.587 にみえる *“Arte”* 序文の引用に“reflexionan”とあるのに拠る.

10) ヴァロ書のいかなる側面を指す記述か未詳だが，該書には教理に関する例が多用されており，あるいは，そうした点を念頭に置いてのものであろう

フランス人のエステバン・フルモン[11] は，1742 年に出版した漢語文法書の序文フォリオ第 33 頁で［文法書は表記に精確を期すべきこと，文法用語を明記すべきだが見解に諸説あること，漢字はヒエログリフ的に無数に存在することなどに触れ］，一部のマイナーな著作では，誰かが構築した文法規則に惑わされることなくマンダリン語を学ぶのに辞書でも十分に用が足りるとの見解に至っている，と述べている．フルモン氏自身は思慮深く学識ある人なので，こうした不合理な考え方は軽蔑するのではなかろうか．そして実際のところ，辞書には何が見出されるだろう．単語の意味や文字の説明くらいであろうか．そこに文の要素である名詞，代名詞，動詞，副詞その他について説明があるのだろうか．全くそんなことはない．それゆえ，文法書を軽視する人が辞書に飛びつけば，一点の疑いなく混乱の迷路へ入り込むことにならないだろうか．そして，それがどの言語の場合でも起こるなら，特定の文字と特定の音節が名詞，代名詞，動詞，副詞その他の役割を規則正しく果たすマンダリン語でもそれは同様なのではないか．こうしたことから，我々はマンダリン語を学ぶため文法規則に配慮することが甚だ有用であることに賛同する．

さて，ここで我々は，当のフルモン氏がそれを道理に反するとしながら，文字を考慮せず学ぶという願望が結果的に無駄骨に終わる事態に直面する．彼は第一分冊フォリオ第 2 頁において，ある言語の学習で第一に提供されるべきは文字であり，このことはラテン語，ギリシア語，ヘブライ語，アラビア語，ペルシア語，インド語，タタール語でも同じだが，中国の言語においては［漢字がヒエログリフ的図像であり，それ自体では欧州文字の如くに音を表さず，文字数も夥しく習熟し難いこともあって］逆の事態が生じると述べる．彼が言わんとす

---

かとも推測される．

11) 原文は “Esteban Fourmont”．Étienne Fourmont（1683-1745）．言及されるその文法書は，*Lingua Sinarum Mandarinicae Hieroglyphicae Grammatica Duplex, Latine Et Cum Characteribus Sinensium. Item Sinicorum Regiae Bibliothecae Librorum Catalogus.*（1742）とみられる．

るのは，マンダリン語を学ぶには漢語の音を欧州文字と適切なアクセント記号で説明する文法書が必要だということである．では極めて明晰なフルモン氏はそれを実践しただろうか．全くそんなことはない．それどころか彼の文法書は［封面にある“中国官話”という］中国文字で始まり，フォリオ第 38 頁では［“ヒエログリフ的文字に無知で，漢語の字書や著作についても素人にして，理解の及ばぬことへの激しい非難に熱中する人々には，我々は対応しないので読者は信頼せよ”[12] と,］そのことを自賛している．欧州を出ることなく，またいかなる中国人とも交流することなく，マンダリン語の宝典を生み出すという不可能を克服した．門弟であったことが一度もない師に他の選択はなく，他の方法で書くことはできなかった．マンダリン語を学ぶことを願いつつ何も得ずに終わりたければ，この高名な師の文法書を学ぶことに熱心に力を入れなさい.[13]

いま一人，ついぞ学んだことがないものを教えることに取り組んだ明敏な師が我々に述べる所を拝聴しよう．その名はテオフィロ・バイエル.[14] 極めて学識豊かなこの作者は二巻からなる著作を書いた．第一巻には「マンダリン語の文法」と書名があり，第二巻は「語彙集および中国に関する知識の博物館」である．名は仰々しいが，それは否定してはいけない．さてその業績や如何．以下に私が短く紹介するように，それは甚だ空虚なものである．バイエル氏はその文法書フォリオ

---

12)　該当すると推測される原文は，“si qui verò loquacitate quâdam malè tumidi, characterum hieroglyphorum ignari, in ipsis hieroglyphorum Libris, ac Dictionariis hospites, blasphemant, quæ non intelligunt, ut jam quibusdam accidit, indoctos ejusmodi, nihili à nobis factum iri non diffidat Lector.”.

13)　「何も得ずに終わる」の原文は，“quedarse á buenas noches”．持っていたものを失う，望んでいた目的に到らない，などの意味がある．“quedarse á obscuras/……á escuras”とも．Real Academia Española（1780）*Diccionario de la lengua castellana*（Joaquín Ibarra），p.769.

14)　原文は“Theofilo Bayer”．Theophilus Siegfried Bayer（1694-1738）．言及されるその著作とは，第一巻が *Grammaticae Sinicae*（1730），第二巻が *Museum sinicum.*（lexicon sinicum et diatribas sinicas comprehendit）（1730）とみられる．

第 3 頁で［“中国の言語は民衆のそれか，教養ある貴人のそれかのどちらかである．後者は大多数の民衆の間で影響力を有する種類の文字表記またその発音ではない”[15] と，］中国の言語をマンダリン語と郷談とに分類し，前者は後者と同種の文字では表記されないと満足げに断言するが果たしてどうだろう．氏よ，ならば我々に教えてほしい，宮廷の人々が民衆と話す際にどのように理解し合うのかを．実際にはそれは話し言葉によってではなく書き言葉によって行われるのであるが，これはマンダリン語が民衆の用いる文字と同じ種類の文字を使っていなければ実現しない．

また，バイエル氏は漢語の音についてアクセント記号を何ら付けずに欧州文字で記している．こうした表記法は教えるというよりむしろ混乱させるのに有効である．マンダリン語は音節や文字に関して欧州語と真逆なことは注意されるべきである．欧州語は無数の音節を有するが，極めて限られた文字しか持たない．マンダリン語は無数の文字や文字記号を有する一方，ごく限られた用語や単語しかなく，その数は 364 を超えない.[16] そのため，世界がそれ自身に内包するもの，知的な行為，内にある情熱，事物の所有や本性等々，多くの事柄を少ない音節で表せるように，少数の音節に多種の抑揚を付与した．アクセント記号が無い漢語の音では曖昧であり，誤解のもととなって混乱した無秩序状態を生じるばかりであって，豊かで雄弁なマンダリン語を粗悪な言語に貶めることになる．この事実を示す多くの例を，バイエル氏自身が我々に提供している．第 1 巻のフォリオ第 11 頁で，氏は Kíu

---

15) 該当すると推測される原文は, “Lingua Sinica est vel popularis, vel ab eruditis exculta. ……（中略）……Ista autem lingua non hoc genere litterarum traditur et his pronunciandi elementis, quae apud plerosque populos valent, ……”. また,「郷談」の *“Arte”* 原文は“popularis”.

16) この見解に関して，Francisco Varo（1703）*Arte de la lengua Mandarina* に，ほぼ同じ内容の記述がある．W. South Coblin, Joseph A. Levi（2000）*Francisco Varo's Grammar of the Mandarin Language（1703）*,（John Benjamins Publishing Company），p.16.

［去］と Xim［聲］の音節を挙げる．著者の意図としては，Kíu は「行く」，Xim は「声」を意味するという．しかしアクセント記号が書かれていないため，「子馬が高位に昇進させられる」［駒昇］，「鳥たちが馬に乗って行く」［鴟乘，雎乘］，「ダメになった歯が輝いている」［齲晟］，「重症の身で高所へ登る」［癯陞］等々，あとは煩瑣を避けて省くが，そうした他の意味との間に迷いを生ずる懸念がある.[17] また，フォリオ第 22 頁には“gotie keu”［バイエル氏原著では“ngo tie keu”］とある．これらの音節は何を意味するだろうか. 氏によれば「私の犬」［我的狗］という意味を表すというが，他の者は「私の口」［我的口］の誤りだとか，「私は皿の口である」［我牒口］の意味であるとか，「私の鉤」「私の釣り針」［我的鉤］，はたまた「私の溝」［我的溝］だと言うかもしれない. さらにフォリオ第 23 頁には“go gai ta”［バイエル氏原著では“ngo ngai ta”］と記している．氏はこれらの音節が「私は彼/彼女を愛する」［我愛他］との意味だと断ずるがそれはどうだろう．これらが「ワニは塔に愛情を持つ」［鰐愛塔］や，「ツルはビーバーを好む」［鶚愛獺］，「私は殴りたい」［我愛打］，「私は返事をしたい」［我愛答］，「私はベッドが好きだ」［我愛榻］等々，先に挙げたアクセント記号なしの曖昧な音に包含される様々な意味にならないとどうして言えようか.

バイエル氏の不備はこれに止まらず，文字も“n”とあるべきを“u”としたり，その逆であったり，“c”を“h”，また“i”を“u”と誤って記したりしている.[18] 最後に彼の文法書は, 対応する意味内容が併記されていない，中国文字のみで書かれた八頁分の単語の記述で終わっている.[19]

---

17) ［ ］内表記はいずれも推定（以下も同様）．後の第二章に述べられるように，*“Arte”*などの資料では，有気音を示すマークはアクセント記号“acentos”に含まれ，声調記号に添え書きされるため，“Kíu”とのみある場合，その漢字表記は無気音と有気音いずれの字も該当し得る.

18) 該当箇所未詳.

19) バイエル書の第一巻（“Liber PRIMUS”）末尾にある，基本語彙について漢字表記を用いて表に列挙した「官花字經解」八頁分を指すと推測される．「官花字經解」では単語ごとに通し番号が付けられ，各単語の意味は，表に

マンダリン語を記述するのに中国文字を用い，それによりマンダリン語の精髄を書き記すという彼の知性は極めて独特である．こうして彼らは門弟を経ることなく師に至る．

中国では地方ごとに独自の異なる言語を有し，その種類は無数であることを既に我々は知っている．だがマンダリン語はその全ての源であり，他を理解するためにもマンダリン語に能力を傾注すべきではなかろうか．ではマンダリン語を修めたい欧州人は何をすべきだろう．教えよう，習得のためには中国文字はひとまず脇へ置き，まず各種アクセントを伴う欧州文字で書かれた中国語の発音から始めるべきである．多くの音節を学ぶことに懸命になりすぎず，自由に，学習における消化不良を起こさぬよう練習に励むこと．そして関係が良好で完璧にマンダリン語を話せる中国人を探すことに配慮し，なるべく彼らに話しかけ雑談しなさい．こうした熱心さにより耳が鍛えられ，当該言語に順応するまでに慣れていくことだろう．

また，習得の上で極めて重要なのは，四～五カ月ほどマンダリン語を練習したならば，間を置かず中国の書籍や著作を探し求めることである．忠告しておくと，欧州文字が付記されず中国文字のみ記載されている書籍の場合，それは学習の助けにならずむしろ妨げに資するものである．「中国語－欧州語」対応の語彙集を手にして，気長に一つずつ文字を追うように．当惑したり焦ったりせず落ち着いて説明を理解しなさい．記述内容を理解したら苦難に耐えて先へ進むこと．ある一字を探すうちに他の字を忘れることも必ずあろうが，気力を失ってはいけない．その字を二回でも四回でも六回でも探しなさい．何も進展が得られないまま一日が終わり,[20] 文字を理解する営為が不可能に感

---

先立つ本文中に通し番号の順で列記されている．

20) 原文は，“En mullendole bien la cama el se acostará de una vez.”（ベッドを十分に柔らかくするや即座にあなたはそこへ寝るだろう）．“No te acostarás sin saber una cosa más. / A la cama no te irás sin saber una cosa más.”（何か一つ新たな知識を得ずに寝てはいけない / …ベッドに行かないように）といった箴言の類に関連した表現とみられる．

じられて幾度もうんざりすることだろう．個々の字に，あなたを打ち倒さんとする獰猛な獅子が想起されもしよう．しかしそれは張り子と笑いとばし，その獅子からより多くを奪い取りなさい．かく揺るぎない態度で二〜三か月以上根気よく続ければ，獰猛な獅子が急に大人しい子羊に変わるように感じられる．三か月後にはもう理解力をもって通常の文体で書かれた一般書を読むであろうことを私は断言する．実に困難なこの苦しみを潜り抜ければ，必ずや滑らかな甘さとともに中国文字を咀嚼し始める．最も旬の洋梨“Don Guindo”を食べたことがあるなら，喉越しはより滑らかである．私を信じ，意気消沈することがないように．忠告を要するが，初めから古典や経典の仰々しい調子や書簡の粗野な対話調に困惑しては具合が悪い. 最初は“SiàoXŭe”［小説］と呼ばれる書, それも“Ch’úen”［傳］のものから始めるべきである.[21] また，主の教えに関する書籍群に付属する教理問答集も，飾らない上品さを備えており，経典解釈に着手するのにも道を開いてくれるので適している．

伝教師は経典を賢明に使うため可能な全てを尽くすべきで，そうでないと迷いが生じ肝腎な所で信仰に反する恐れもある．言っておくと古典の教えは当てにならない．モーセの書と同等に健全な教えと言う者もいよう．読者も中国の教えに関して欧州の書にある長い賛辞を読んでいるだろう．自ら評判を下げたくはないが，鵜呑みにせぬよう読者を守りたくもある．芳しい蜜柑ではない饐えたグアバを口にせず，真実また啓蒙の神を見出すという心願から憂いなく読み，何人も気力を失わぬよう．加護ある人ならこうした古典を教える意図をみな理解する．古典の理解は福音書を誠実に広めるのに関係しており，怖気づく福音の伝道師は非難されるべきである．人間の王が自軍の兵士を丸

21)　いま表記について「傳」としておく．ヴァロ書ではラテン語学習におけるキケロなどに相当する読み物として“siàoxuĕ”（小説）のみ挙げる．W. South Coblin, Joseph A. Levi（2000），p.7．表記が「傳」であるとして，“水滸傳”や“醒世姻縁傳”など白話小説の類を特に指すために加えられたものであろうかとも推測される．

腰で敵と対峙するよう戦に派遣することはありえないけれど，不死の王はどうだろう．地獄の復讐の女神らと戦うのに必要な兵器を与えず福音の兵士らを最前線に投入するだろうか．不可能である．奮って任務にあたられよ．主の教えに関する書に読者は健全で福音的な優れた教えを発見し，他の少なからぬ書には基督教徒的であり異教徒的でもある教えを見出すだろう.[22] 後者はそうした手法で，ベリアルと親密な関係を保った基督に関する説教を行う．彼らは異教徒の衣装や靴を取り入れることを誇る．聖ペトロのように神の声に反応しつつも［禁断の食物を］口にしなかったのとは異なり，彼らは著者として異教の真髄を書物に取り込み基督教に加えた．基督に仕える職人にでもなりたい福音の聖職者は皆そうすべきである．従来また現にそうであるようにこの種の書物が好評を博している間は，基督教が中国に深く根付くのは不可能だと思う．これを真摯に考える伝教師にはできることが多くある．

私は，伝教師をはじめマンダリン語を熱心に学びたい人を早急に支援するため，この言語の文法書を出版することを決意した．加えて，もし寿命・健康・資金が得られるなら，シソーラス付き語彙集も出版する．また，初学者の負担軽減のため，懺悔を聴く簡易な方法についても同様に執筆する．最終的に，欧州と中国それぞれの文字で書かれた対話例文集を世に出す．［体裁としては,］一方の段に解説とともに欧州語を並べ，もう片方の段には漢語を配置して，一方の一番目にある欧州語をもう片方の一番目の漢語に対応させる.[23] こうすることで

---

22) ロ氏の場合, マカオ総督の依頼でポルトガル人の著作を漢語に訳したことがあり，その書（*Espejo moral* “道徳の鏡”．漢語名は未詳）では“読者を魅了するため孔子の語や中国の格言をちりばめ”る改変を加えたという．一方で適切でないと考えて信仰に関わる箇所は意図して翻訳を避けたとも述べる．Diogo Fernandes Salema de Saldanha（1771-77 マカオ総督）宛 1773 年 10 月 23 日付書簡. *Archivo universal. Vol.3*（Typographia de J.V.P.da Silva.1860），p.291.

23) *“Arte”*巻末に付録の“*Breve método de oir confessiones en lengua Mandarina.*”において実際に採用されているような, 欧州語と漢語，それぞれを二段組で分けて掲載するような形式を指すかと推測される．

漢語の文字列を［左から右へと］欧州式に読むべきことが分かり，いずれの語についても語彙集なしで理解しながら読むことができる．この書は左から右へという体裁であり，中国式の配列はこの小品には適用しない．

序文を終えるに際して，ある好奇心を満たしておきたい．多くの人がこう尋ねてくる．話し言葉で理解し合えない中国人は，相互理解のためどのように書き言葉を用いるのかと．教えよう，中国文字は何ら意味のない単一の要素から構成されているわけではない．それどころか，個々の文字が意味ある単語となっている．欧州文字ではこれと逆のことが生じている．各文字は単一の要素であり，それ自体は意味を表さないが，多くの要素が組み合わされて一個の意味ある単語を形成する．欧州各国は各言語の特質に従って各国共通の欧州文字を組み合わせている.そのためフランス人はスペイン語の文書を理解しないし，スペイン人もフランス語の文書を理解しない．中国文字の場合，その意味内容を無言で示す記号であり，官話や粤語，トンキン語，ラテン語,フランス語,はたまたスペイン語でそれをどのように発音するか，その選択肢は各人に委ねられている．欧州文字は，それが互いに組み合わされている場合に，単にその事柄を認識させるだけでなく，その事柄の呼称としてあるべき音も決定する．それゆえ，カスティーリャ人が“Cielo”と組み合わされた五文字を読めば，直ちにそれらが意味する［“空，天”という］内容や，“Cielo”を指すその名の音が分かる．［ラテン語のように］”Coelum“とは言わないし，［ルソン島で話されるカパンパンガン語のように］”Banua“とも言わない．“Cielo，Coelum，Banua“のいずれも同じ意味を表すのにもかかわらず，である．中国文字を使う中国人や日本人，またコーチシナ人そして他の国の人々の場合は，“Cielo”の意味で書かれた文字［空，天］を見れば，それぞれ魔法にかかったように“空，天”を想起する．しかし，各言語における適正な名称でそれを呼ぶのであり，それぞれ言語が異なっているため，話す時は書く時のように理解されないという事態が生じるのである．

同様のことは欧州の記数法でも起こる．欧州人はみな，“8”という形や他の数字の形を見ればどの人も同じ概念を構築する．しかし，各人がこの概念をそれぞれの言語で表現する段になると，それぞれ言語が違うことにより概念が相互に理解されない. ではこの辺でお別れしよう．私のために祈り給え．

## 3. 第一章

マンダリン語を表記するスペイン語の文字記号, “ç. ch. e. g. h. i. j. k. l. m. n. o. p. s. t. u. vu. x. y. sz.”をいかに発音すべきかについて.[24)]

母音は“a. e. i. o. u.”であり，末尾の子音は“n. ng. l.”である．これらの子音三種で終わらない音節は，母音五種のいずれかで終わる．マンダリン語が［欧州の言語では用いられる］“b. d. r.”を欠くのは既に見た.[25)] ［語頭の軟口蓋］子音“c. k. q.”については,［主要母音“u. a. o”の前に置かれる場合など］多くの音節は“c”で始め，他の［“ui. ue”の前］では“q”で書き始めることがあり混同しやすいが, いずれについても“k”で書くほうがもっと自然である．それゆえ，混同を避けるために，特に必要も無いので“c. q”は放棄して，この種の［軟口蓋］音は全て“k”で書く．この設定は以下の説明より適用することとする．

### 語頭の文字について.

“ç”について．“ç”の後ろに“h”を記す方式の著作もあれば，“s”を記す著作もあり，また，“h”と“s”のいずれも無い著作もある．ヴァロ師はその *Arte*［*de lengua Mandarina*］において“h”を記し，聖アウグスチ

---

24) ヴァロの文法書には子音に関する説明が少なく，*“Arte”*第一章はそれを補完する内容とみなすこともできる．また，漢語の音声を表すアルファベットについて，*“Arte”*原文では単語の冒頭で大文字と小文字を混用することも多いが，本稿では文例の場合を除いて基本的に小文字に統一する．

25) 耶蘇会士 Pedro Murillo Velarde の著書，*Geographia historica tomo VII, de Persia, del Mogól, de la India, y sus reynos, de la China, de la Grande Tartaria, de las islas de la India y del Japón*（Imprenta de Manuel de Moya, 1752）の p.136 にも，官話が“B D R X Z”で表記される音を持たないことをその特徴の一つとして記し，“Padre”が“Pale”と発音される例を挙げる．

ノ修道会の著名人である Thomas hortiz 神父［Tomás Ortiz（1668-1742）］は，その著 *Vocabulario de lengua Mandarina* で“s”を用いている．バイエル氏とフルモン氏に関しては，“h”も“s”も使わない．“ç”だけで十分と考える者は見当違いをしている．さて，“ç”に後続する“h”と“s”それぞれの間には，言うなれば一本の細い髪ほどの，ほぼ等価値と見なせる程度の僅かな違いしかない．そうは言っても，その音は“h”よりは“s”のほうに近いということがあり，この種の音については“çs”と記すことにする．その発音は，“ç”を［個別に発音することなく後続の］“s”に穏やかに打ち当てつつ調音すると完璧にその音が出る．例.[26] çsă［雑］混ぜ合わせる，çsāy［災］災難，çsày［宰］獣をしめる，çsáy［在］特定の場にいる，など．「神はあらゆる場所におられる」．T’iēn（天）chù（神）vû sò（～がない）pŏ･[27]（～ではない）çsáy（いる）．［天主無所不在].[28]

“ch”について．“c”の後ろには常に“h”が記される．これは語頭“c”の［軟口蓋的な］発音を小さく抑えた格好での音節全体の自然な発音が求められるためである．この組み合わせは，後述の喉音性［＝有気音］の場合を除いて，我々が“chacota”［冗談］，“chiste”［面白味］，“chocax”［衝突する］，“chusma”［群衆］を発する際の穏やかさで発音される．例．chā［搾］搾り出す，chá［詐］偽って装う，chă［閘］河の水路の水門，chàn［斬］たたき切る，chán［站］立った状態でいる，など．「私は立っていられない」．Chán（立つ）pŏ･（～ではない）chú･（存続する）［站不住］．

---

26) *“Arte”*では挙例の際，「この類に属するものは……である」とする場合と，「v.g.」と記す場合がある．本稿では後者を「例」と訳し前者にも適用する．

27) この“pŏ･”など，音節に“･”が加わる類について，実際には*“Arte”*では声調記号などの上に“･”が付けられているが，本稿では技術的な問題と判別のしやすさから末尾に“･”を付すこととする．

28) 原注：“t’iēn”は［中国古来の“天”でなく“天上の”という］属格に相当し，［天主の二字で］基督自身を指すような語である．Vû［無］は，「ある，存在する」を意味する yeù［有］の反義語．

“f”について．“f”で始まる音はいずれも単純で何ら困難はない．我々が“facil”［簡単な］，“fiel”［誠実な］，“funcion”［機能］を発音する際の穏やかさで発音される．例．fǎ［法］法律，fāng［方］きまり，fân［凡］どんな～でも，fȳ［飛］飛行する，fū［夫］夫，fú［婦］妻，など．「夫と妻は互いにひどく嫌悪している」．Fū（夫）fú（妻）siāng（互いに）hén（ひどく嫌う）．［夫婦相恨］．

“g”について．中国人は常に，スペイン人が“ga，go，gu”を発する際の方法と穏やかさで“g”を発音する．スペイン語にある“ge，gi”の音は中国人にとっては未知の領域に属する．例．gāy［哀］気の毒に思う，gáy［愛］愛する，gēn［恩］恩恵，géng［硬］硬さ，gò［我］わたし，gó［餓］飢える，gô［鵝］ガチョウ，gǒ［鱷］ワニ，gū［汚]汚す，など．「君は猛烈に空腹である」．Nỳ（君）gó（飢える）tě（～できる）fȳ（～ではない）ch’âng（普通の）．［你餓得非常］．

“h”について．“h”で始まる音は，［ラテン語“f”由来の“h”が無音化せずに残存する[29)]］アンダルシア風に“humo”［煙］を言う感じで発音する必要がある．仮に，語頭の“h”について，カスティーリャ語の“j”が少し勢いを増した感じで発音しても誤りではない．例．hày［海］海，háy［害］傷つける，hào［好］良い，hêu［猴］サル，hiā［鰕］エビ，hiâ［蝦］ガマガエル，hiǒ［學］習う，hiù［許］見込み/誓願，hò［火］火，hô［河］川，hó［貨］商品，hû［湖］潟湖，hûng［紅］赤い，hě［黑］黒い，など．

“i，y”について．この文字に困難なところはない．明瞭に発音される．例．ȳ［衣］衣類，ŷ［疑］疑う，ỳ［以］～を使って/～のために/～が原因で，ý［意］意図，īn［因］～なので，ŷn［銀］銀，yā［鴉］

29) 15 世紀頃の文語で/f/であったものが 16 世紀に/h/に代わり，16 世紀後半には無音化したとされる．ただし，黄金世紀（16c～17c）を通じて/h/はアンダルシアなど一部で無音化せず残存し，今に至る．伊藤太吾（1975）「ロマンス諸語の多様性と均等性について：特にルーマニア語とスペイン語に関して」『大阪外国語大学学報』33, p.10．Christopher Pountain（2001）*A History of the Spanish Language through Texts*（Routledge, 2013 年版に拠る），p.163.

カラス，yâ［牙］臼歯.「銀を好まぬ者が誰かいようか」．Pě（白い）ŷn（銀）xûi（誰）pǒ･（～ではない）gáy（愛する）？ ［白銀誰不愛?］

“j”について．“j”は後続の母音に強く打ち当たる子音である.[30] フランス人やイタリア人，またポルトガル人には自然なこの調音も，カスティーリャ人にとっては粗野な音である．このため，中国人が“j”を発音するのと同様に発音できるよう，特別な発音学習を基礎段階で加えることが欠かせない．この音はラテン語“Jesus，Jacob，Judas”を発音するように，ただし母音に激しく打ち当てて発音される必要がある．なぜなら，仮に“hombre”［人］の調音位置で穏やかに発音した場合，それは“plata”［銀］の意味となってしまうためである．同様に，“caliente”［熱］が“hoja”［葉］の意味になったり，“ceder”［譲］が“modelo”［様］の意味になったりする．例．jîn［人］人間，jìn［忍］忍耐，jín［認］知っている，jáng［讓］譲る，jě［熱］暑さ，jě･［日］太陽，jǒ［弱］弱い，jù［乳］乳を飲む，など.「子羊が乳を飲むためにひざまずく」．Kāoyâng（子羊）kuéy（ひざまずく）jù（乳を飲む）．［羔羊跪乳］.

“k”について．“k”は，ある場合に“c”，別の場合には“q”，また他の場合には“k”と，［資料によっては環境により］三種に分かれていた音［表記］を全て正確に表すのに甚だ適しており，そのため我々は“c”と“q”を使わず，“k”を用いることとする．その発音は，我々が“Kalendas”［ローマ暦の毎月第一日］，“Kyrie”［ギリシア語“主よ”］と言う際の方法で行われ，理解しやすい．また，“k”は後に言及されるように喉音性と二重母音の音節を有する．例．kāy［該］ふさわしい，kèu［狗］犬，kȳ［雞］めんどり，kō［哥］年上の兄弟，kū［鴣］シャコ，など.「シャコは歌うよ，私は兄から離れられぬ，一方で兄は私から離れていく，と」．Ché kū（シャコ）cháng（歌う）xuě（言う）：xè（離れる）pǒ･（～で

30) 「打ち当てる」の原文は“hiexe”．Thomas Planquais（1807）*A new Spanish and English grammar*（author）p.6 に“La y griega hace oficio de consonante y de vocal: el de consonante hiere á la vocal que se le sigue”［“y”は子音また母音としての役割を果たす．子音としての“y”は後続する母音に打ち当たる］として，“rayo, yerro”など硬口蓋接近音を含む例を挙げ“ayre, alcayde”の類と区別する．

はない）tě（～できる）kōkō（兄弟）, kōkō（兄弟）xè（離れる）tě（～できる）gò（わたし）.［鷓鴣唱説：捨不得哥哥,[31] 哥哥捨得我］.

“l, m, n, o, p, s”の諸字について．これらで始まる音については困難な点もなく自然と発音される．例．lây［來］来る，mày［買］買う，máy［賣］売る，mỳ［米］純米，mỳ［迷］精神的盲目，miâo［猫］ネコ，miáo［妙］優れた，này［奶］乳房，nỳ［泥］泥土，nỳ［你］あなた，ný［膩］油気のある，niào［鳥］鳥，niáo［尿］尿，ō［噢］許諾する，ǒ［惡］邪悪な，pā［疤］傷跡，pà［把］手に取る，pá［罷］十分である,[32] pǎ［八］“8”，pàn［板］台，pāng［幫］助ける，sāy［腮］頬，sȳ［西］西方，sỳ［洗］洗う，など.「片方の手でもう一方の手を洗い，両手で顔を洗う」．Yéu（右）xèu（手）sỳ（洗う）çsò（左）xèu（手），xoāng（二つの）sèu（手）sỳ（洗う）mién（顔）.［右手洗左手，雙手洗面］.

“t”について．この文字は明瞭かつ自然に発音される．例．tà［打］殴る，tá［大］大きい，tién［靛］藍，tiēn［癲］気がふれている，t’iēn［天］天.「神は美徳を褒め称え，悪事を懲らしめる」．T’iēn chù・（神）xàng（褒め称える）xén（美徳）, fǎ（罰する）ǒ（悪事）.［天主賞善，罰惡］.

“v，u”について．“u”については何ら困難なく調音される．例．ū［烏］黒いもの，ù［五］“5”，ú［誤］間違う.「全てあっという間になくなった（だめになった）」.[33] ú 我々は誤る leào すでに szú・事業.［誤了事］.“v”については，母音に穏やかに打ち当てつつ，“u”に似た感じで発音される．例．vuā［蛙］カエル，vuǎ［襪］長靴下，vâng［忘］忘れる，vàng［網］網，váng［望］期待する，văe［物］もの.「全能の神は無

31) キジ科のシャコの鳴き声について明・方以智『通雅』巻四十五「鳥」に『禽經』張華注を引き「自鳴“鉤輈格磔，行不得也哥哥”」と記す.「捨不得哥哥」はこの鳴き声の聞きなしに基づくものと推測される.

32) 原文は“basta”．Miguel Roca（1661-1757）*Diccionario chino-español*（漢西字典）「罷」字に同じ意味が記され，また Varo の語彙集に“Ya basta. bá leào 罷了/ kéu leào 夠了”とある．W South Coblin（2021）*Francisco Varo's Glossary of the Mandarin Language Vol. 1*（Routledge），p.304.

33) 原文は“todo se lo llevó el diablo”.

から全てを創造した」．Çs’ivên（全て）nêng （力のある）T’iēn chù･（神）çs’ûng（～から）vû（何も～ない）sēng（創造した）ván（一万 văe（もの）．［全能天主從無生物］．

“x”について．マンダリン語の“x”は［カスティーリャ人にとっては］“cs”や“gs”と混同しやすい．この音はカスティーリャ語のように発音するのではなく，ラテン語の“Xaverius”［シャベリウス（姓）］，“Xenium”［贈り物］，“Xystus”［屋根つき玄関ポーチ］を発音する際のようにすべきである．例．Xā［沙］砂，xǎ［殺］殺す，xào［少］少し，xê［蛇］ヘビ，xě［舌］舌，など．「既婚の女性達は長い舌をもつ」．Fú jîn（既婚の女性達）yèu（持っている）ch’âng（長い）xě（舌）．［婦人有長舌］．

“sz”について．“sz”には母音“u”のみ後続する．“sz”で書かれる音節は声調が三種しかなく，小さな点を添えて記される．その発音は“çs”を伴って書かれる音節とおよそ異質であり，［“u”を伴う］見た目とまるで関連なく，少し歯が見えるくらい唇の端をやや耳の方へ引いて発音される．これらの音節を完璧に発音するためには，唇を開き気味にするよう気を付け，舌をそっと上の歯の裏に当てて，［そうして出てくる］独特の小さい呼気音をどのように調整すれば“s”と“z”の混合音が出るかを確かめる．こうすれば音節の完璧な発音が上手くいく．これが理解不可能で抽象的な何かであると考えないように．数日練習すれば中国人の口から出るのと同等に自然な音が出てくる．例．szū･［師］先生，szù･［死］死ぬ，szú･［似］似る．「師と門弟は時を同じくして亡くなった」．Szū･（師）tý（門弟）t’ûng[34]（同じ）xŷ（時）szù･（彼らは死ぬ）leào（すでに）．［師弟同時死了］．

## 子音韻尾について．

子音韻尾は“n. ng. l”の三種しか存在しない．母音韻尾に関しては特

34) *“Arte”*原文では，声調記号の近くに小さく「c」に似た記号を付けてそれが有気音の音節であることを示しているが，本稿では技術的な問題と判別のしやすさから，子音に「’」を付してそれが有気音であることを表すこととする．

に記すべき事柄はないため，“n”に関する解説から始める．

“n”は我々が“pan”［パン］，“sachxistan”［聖具納室係］，“mandaxin”［官話］を発音する際と同じように自然に発音される．中国人の場合は，çs’iên［錢］お金，kién［見］見る，lín［吝］けちな，t’ān［貪］欲深い，といった表現をする．「貪欲な者の金に対する態度は，ハエが血に飛び急ぐが如くである」，t’ān lín（欲深い）kién（彼は見る）çsiên（お金）yêu（～するそのように）jû（～のようだ）çsāng īng（ハエ）kién（彼らは見る）hivě（血）．［貪吝見錢猶如蝤蠅見血］．[35]

“ng”について．どの国［の著作］でも，マンダリン語は貴族階級の言語の発音にしたがって記述する．そのため記録者により記述の仕方が異なるが，そのいずれでも良い．なぜならいずれの記述によっても中国人が発音するようにその音節の音が出るからである．こうした事情から，この種の［“ng”］音節を“m”で結ぶ著作もあれば，“ns”で閉じる著作もある.[36] スペイン人の場合，我々［の言語］に独特の調音方法に似ているため“ng”を使う．その音節の調音は容易であり，穏やかに行って“g”そのものを際立たせる必要は少しもない．例．chāng［章］書籍の章，ch’âng［長］長い，chàng［掌］手のひら，cháng［帳］ベッドの天蓋，hîng［行］歩いて行く，yâng［羊］雌羊，など．「一頭の羊がそこを行けば，みながそこを行く」．Yê･（一頭）yâng（雌羊）çs’iên（前）hîng（歩いて行く），chúng（全ての）yâng（羊たち）héu（後ろを）ký（ついていく）．［一羊前行，眾羊後繼］．

“l”について．“l”で終わる音節は調音のなかで最も骨が折れる．中国人自身ですら，それがまだ母語の拙い子供であったなら，大半は“l”を体得しておらず，マンダリン語が要求する水準の正確さで発音するに

---

35) 『漢西字典』「蝤」字に“Kūng jîn kién ch’uên, yêu jû ^ îng kién hiuě［官人見錢，猶如蝤蠅見血］（銭を見つめる官吏たちは，血を見ているハエのようである）”との類例がある．

36) “ns”に関して，ヴァロ文法書では読者（特にフランス人向け）に理解をうながすため，“ng”について説明する箇所で便宜的に“g”を“s”に替えて表記している．W. South Coblin, Joseph A. Levi（2000），p.14.

は神と助けを要する．私は広東省の現地人の中でその音を直接に体験した．［かく難しいのだが］それにもかかわらず，読者にちょっとした練習規則を［後で］与えよう．それを守ればすぐにこの音を発音できる．この類に属する音節は極めて少なく，いずれも“u”で始まり，第二，第三，第四という三種の声調しか許容されない．例．û･l［兒］息子，ù･l［耳］耳，ú･l［餌］エサ．では，私が言うコツを聞き給え．上の歯の裏に舌先を置き，スペイン語で明瞭に［“último”などに含まれる］“ul”を発音する意図を持って，舌先で上の口蓋をかすめつつ発音を始めなさい．こうした処理によって，マンダリン語が要求する水準の正確さで調音された音が確実に出ていく．生粋のマンダリンのような発音など夢まぼろしのように思われても，少しの練習で事実上それと同様の発音ができる．気晴らしとなる例を参照せよ．「千枚の金貨より我が息子は価値がある」．Çs’iēn（千）kīn（金貨）pǒ･（～ではない）jû（～のように）gò（私）û･l（息子）hào（良い）．［千金不如我兒好］．

**二重母音について**．

マンダリン語に類義語や二重母音が豊富なのは事実だが，一方で二重母音を持たない二音節語というものも多い．二重母音には様々な種類がある．ここでは“i”と“e”の二重母音から始め，全てを順に取り上げていくこととする．

“i，e”の二重母音について．これは“i”と“e”のいずれでもない混合音であるが，どちらかと言えば，“e”よりは“i”に近い．例．çsiě･［疾］病気，çs’ié･［嫉］ねたみ,[37] kié･［吉］幸運，lié･［栗］クリ，など例は多い．「中国の栗はスペインのそれと同じである」．Chūng Kuǒ（中国）lié･çsù･（クリ）t’ûng（～と）Táliù súng（スペイン）lié･çsù･（クリ）yě･（ひとつの）yáng（様式）．［中國栗子同大呂宋栗子一樣］．

この二重母音“ie”の別の一種に，ふつうは単に“e”とだけ書かれ，さ

37) *“Arte”*では“çs’ié･”について“envidia”と意味を記す．W.South Coblin（2021）に“Embidia [envy] çs’ié･tú 嫉妒……máo çsié･媢嫉”（Vol. 1,p.225）とあるのを参考に表記を「嫉」とする．

らに音表記の上に小さい点が付されるものがある.[38] その調音は上述のものと同様である．この類に属するものには，chě･［直］まっすぐな，ch’ě［吃/喫］食べる，などのほか，辞書にみられる多くの語がある．「生きたい者は食べなければならない」．Tán fân（～の誰でも）yáo（～したい）sēng（生きる）pié･yáo（必要である）ch’ě･（食べる）．［但凡要生必要吃］. [39]

二重母音“iu”について．“iu”で終わる音節は，全て二重母音化する．例．çsiū･［蛆］ウジ，çs’iù･［取］受け取る，kiū･［居］住む，k’iú･［去］行く，liû･［驢］ロバ，niù･［女］女性，など．これらは次のように発音される．両唇は前に伸ばし気味にし，そっと吹く感じで唇で“i”を“u”に打ち当て，蝋燭を消そうとするように軽く口をすぼめる．そうして子どもが泣き出す時の顔で発音する．こうすることで正確な発音になる．また，“i”は“u”よりも幾らか強めにその音が出る．例.「病人は食べるのを控えめにする必要がある」．Píng（病気の）jîn（人）siū･yáo（必要である）xào（少ない）ch’ě･（食べる）．［病人須要少吃］．この種の音節の一部は，kiū･n［軍］指揮官，siû･n［巡］巡回する，k’iû･n［群］群れ，のように“n”で終わる．こうした音節は［表記の］見た目とは異なる感じで発音される．“i”においては両唇を広げ，“u”では［円唇性を］抑え気味にする.「三頭の子羊が群れている」．Sān（“3”）yâng（子羊たち）ch’îng（つくる）k’iû･n（群れ）．［三羊成群］.

二重母音“iue”について．この種類の音節は，文字三種が一種であるかのように，それぞれ幾らか不明瞭に発音される．“u”を発音する際に

---

38) 注 26 にも記したように，音節に“・”が加わる種類について，技術的な問題と判別のしやすさから，本稿では上ではなく末尾に“・”を付す.

39) 原注（Nota）: Chūng［中］は“中心”を意味し，Kuǒ［國］は“王国”である．これらにより Chūng Kuǒ［中國］は“その統制が倫理・物理の両面で完璧と美の中心にある王国”の意となる．この王国は中国人の概念では中国以外にありえず，故にこの王国はしばしば Chūng hoâ［中華］，“正しく適度な理想の美”と呼ばれる．さて，彼らは何故スペインを大ルソンと呼ぶか．ルソン領主であることが理由である. フィリピン諸島を彼らは最も主要な島の名に基づきルソンと呼び，これによりスペインが大ルソンとなる.

は両唇［の円唇性］をやや抑え気味にする．例．hiuě［血］血，siuě［雪］雪，çsiuě［絶］断つ，など．「基督教徒は洗礼を受ける際，彼らの虚飾の世界を断つ」．kiáo yèu（基督教徒）lìng（受ける）sỳ（洗礼）xŷ（時）, çsiuě（断つ）leào（すでに）xý（世界）fŏ･（幸福）xý（世界）lŏ（うっとりする楽しさ）.［教友領洗時，絶了世福世樂］．これと同じ［で最後が”n”で終わる］種類のものは，liuén［戀］好きになる，çs’iuên［全］まったく，çs’iuēn［筌］漁に使う仕掛けワナ，などである．例．「魚をとるのに仕掛けは傍らに［置き忘れたまま］」．Tě（捕まえる）vû（魚）vâng（忘れる）çs’uēn（ワナ）.［得魚忘筌］.

二重母音化された“o”について．“ŏ･”また［有気音の場合］“’ŏ･”と書かれる音節は，それと知覚されない程度に“u”と混ざったような発音がなされ，両唇［の円唇性］をやや抑え気味に発音される．例．chŏ･［竹］麦，竹など中空で節のある茎，yŏ･［欲］望む，jŏ･［辱］侮辱する，t’ŏ･［禿］はげた，tŏ･［讀］学習する．「学習することが私の無上の楽しみである」．tŏ･（読む）xū･（書籍）çsiéu（本当に）xý（～である）gò tiě･（わたしの）puèn（本来の）szú･（仕事）.［讀書就是我的本事］.

他に，“u”で終わる音節がある．xŭ･［術］技術，yŭ･［疫］疫病，ch’ŭ･［出］出発する，など．これらの音節では［十分な円唇性を伴って］明瞭に“u”の音が出る．例．「彼は家を出発した」．Ch’ŭ･（彼は出た）leào（すでに）muên（入口）.［出了門］.

マンダリン語を正確に発音することや，我々の文字で表記することに私を導いてくれたと思うものについて述べよう．ただ，記しておく必要があるが，諺に「町それぞれに素晴らしさがあり，地域それぞれに話し方がある」と言われるような［言語の多様性という］側面はある．スペインでも，カスティーリャ語という一言語の発音であってもちょっとした訛りの違いであるとか，種々の音節の発音の違いなど，そうした多様性が付与されていることを我々は知っている．それらは特定の地方では使われるが他では使われないとか，ある地域ではある様式で発音されて他の地域では異なるといったものである．とはいえ

生粋のマドリッド人がアンダルシア語の尊大な口調を真似る必要などない．どの語であれ話す言語は同一であり，話している当人たちが少しやりとりすれば些かの混乱もなく理解するものである．

これと同様のことが中国ではマンダリン語で生じている．南京人の口調は厳粛で高貴であり，北京人の口調は尊大で堂々としている．一方の地域では他方で使わない韻尾を使うし，一方の地域では特有の様式で発音して他方ではまた異なる．ただし，こうした相違の結果として生じる［意思疎通の］問題は，双方の協働により容易に克服される．最大の困難は，書面のみで使用する単語を口頭で述べる際，その音節を識別するときに生じる．そのため，マンダリン語の知識をある程度において獲得したならば，次は文字に力を入れなさい．そうすれば識別に際して理解に頭を悩ますことはないだろう．反対にもし言語についての理解がなければ，文字に忙殺される事態になる．他の何事も達成できずに規則や約束が詰まった混乱の海に沈潜し，初学者の代償として多大な労苦を定期的に得る．では，確実で有用この上ない普遍的な規則を聞き給え．どのような規則か．他でもない，自由さと，有用な悟りを伴った，適度な練習を行うことである．この規則が四日であなたに教えるものは，*Arte* に記載される全ての規則が四か月を費やして教えるものより多いだろう．

## 4. 第二章

### アクセントについて

すでに序で述べたように，中国語の音節数は極めて少ないため，概念を混乱させることなく説明できるよう，アクセントの種類を増やすことが必要である．中国人は彼らの字書において五種のアクセントを区別している．第一のものは xàng p’îng［上平］，“高く［ピッチが］均等な”と呼ばれている．第二のものは hiá p’îng［下平］，“低く［ピッチが］均等な”と呼ばれている．第三のものは xàng xīng［上声］，“高い声”であり，これは短めのアクセントである．ラテン語では“acutus（鋭

く甲高い［ピッチの］）”と呼ばれる．第四は k’iú xīng［去声］，“巡回する声”であり，我々は“largo（ゆったりしたテンポの）”と呼び，ラテン語では“gravis（低調の重々しい）”と呼ぶ．第五は jě･xīng［入声］，“入ってくる声”と呼ばれる．この前提を述べる段階で，既に我々はそれぞれ［の特徴］についての説明を始めている．

アクセントには単体のもの，喉音性のもの，唇音性のもの，そして喉音・唇音の混合性のもの，という種類がある．単体は他のアクセントの基盤であり，次のように記号が記される．「—　∧　＼　／　∪」．

第一の“—”と記される音節は，全く上げ下げせずに均等な声を長く発音する必要があることを示す．［たとえば］誰かが驚嘆して「おお!（O!）」と言う，あるいは嘆き悲しんで「ああ!（Ay!）」と言う時の感じである．例．kuā［瓜］かぼちゃ，sȳ kuā［西瓜］スイカ，yuēn［怨］恨み，goēy fūng［威風］絢爛豪華．

第二の“∧”は，この記号が付けられる音節が［二音節である場合には，］二番目の音節で少し声が低く調音すべきことを示しており，もしそれが［ŷ のように］単音節の単語であれば，二音節を有するかの如く長く発音する必要がある.[40]［たとえば］ある人が私に「アントニオは飲んだくれだ」と告げる．私は初耳だと驚いてこう言う，「どうして飲んだくれなのですか，いーえ（No），そんなことはないですよ」と，このように入念にじっくり「No」と言う感じで，声をやや低めにして発するのが，漢語の第二の声調である．例．lîng hoên［靈魂］理性的魂，yuên［元］根源，gô［鵝］ガチョウ，ŷ［疑］疑問に思う．

三番目の“＼”は，それが付いた音節が鋭く短く，そして粗野な感じで発音されるべきことを示している．［たとえば］人々が「これやりたいかね」と私に言い，私はある種の苛立ちとともにこう答える，「いや結構!（No）」と．この「No」を言う感じが，漢語の第三の声調の姿である．例．hày［海］海，lỳ［禮］礼儀，ỳ［椅］イス，yuèn［遠］遠

40)　この箇所の補足については，ヴァロの文法書にみえる記述を参考にした．W. South Coblin, Joseph A. Levi（2000），p.33.

くに隔たって．

第四の“／”は，これが記される音節が長くゆったりとしており，そして上がり調子で発音されるべきことを示す．［たとえば］人々が私に「そんなところへ行ってはいけない」と言う．私はある種の勇ましい調子でこう反駁する，「いけないのでしょうか？（No?）まあ見ていてください」と．この皮肉な響きで発せられた「No?」が，漢語の第四の声調である．例．çsáy［在］存在する，cháy［債］借金，ý［義］公正さ，yuén［願］望む．

第五の“∪”は，こうしたアクセント記号を持つ音節が，第四の声調そっくりに発音して途中で止めるタイプであることを示している．さらにこれは，最後のところで音節を断ち切るように発音される必要がある．［たとえば］私がだしぬけに大きな幽霊を見て驚き，「わっ!（O!）」と叫ぶ．この「O!」を言う感じが当該声調に似ており，漢語の第五の声調についてはそのように発音されなければならない．例．lǎ［蠟］ワックス，mě［墨］インク，sě「色」色彩，pǒ hiǒ［博學］博識な人，yuě［月］（惑星の）月．

## 喉音性のアクセントについて

この種［＝有気音］のアクセントは，後述する他のアクセントと共に，単体のアクセントよりもある意味で難しい．とは言え，四日間の練習によりそうした困難からすっかり解放されることを知れば，読者も安堵するだろう．喉音性のアクセントについては次のように記される．「—c　∧c　＼c　／c　∪c」．[41]

喉音性のアクセントは，咽頭で力を込めて声を強く発出して形成される一種の音声修正であり，五種の［単体の］アクセントに属する要素を全く変えることなく，単体および唇音性のものとは区別される．例．ch'ēu［抽］取り出す，ch’êu［仇］敵，ch’èu［醜］みっともない，ch’éu［臭］悪臭，ch’ě［斥?］理解する.[42] “t, p, k, ch, ç”で始まる音節

41) ここでは原文に合わせて声調記号の近くに小さく「c」を付けている．

42) 「理解する」とした箇所，原文“entendex”であるが適切な該当字は不明であ

のみ，このアクセントとなることができる．

## 唇音性のアクセントについて

唇音性のアクセントを有する単語には，次の［小さい点の］記号が示される．「—・　∧・　＼・　／・　∪・」．

これらは両唇を軽く閉じ気味に形成されるため，唇音性と呼ばれている．［詳細は］上述の二重母音“iu”に関する箇所を参照されたい．“çs, sz,”で始まる音節［で“u”を有する場合］も小さい点を付して示されるが，先述した［口を軽くすぼめる発音］規則の部類には含まれない．これら［“çs, sz,”は，先にそれぞれの］文字についての箇所で説明したように，両唇を横に開いた状態で，“ç”あるいは“z”を［個別に発音せずに］歯のところで後続音に穏やかに打ち当てつつ調音する．

## 混合性のアクセントについて

混合性のアクセントには，喉音性の要素と唇音性の要素から成るものがあり，次のように書かれる．—$^{C\cdot}$　∧$^{C\cdot}$　＼$^{C\cdot}$　／$^{C\cdot}$　∪$^{C\cdot}$．

既述したとおり“çs, sz,”で始まる音節を例外として，この種類の音節は全て，両唇を［すぼめて］やや閉じ気味にし，咽頭で呼気を作り出して発音される．いずれも力強さと引き裂く勢いで発音される必要がある．例．k’iū・［驅］追い払う,[43] k’iû・［渠］水路，k’iù・［去］外に捨てる,[44] k’iú・［去］行く，k’iǔ・［屈］打ちのめす.[45]

（以上）

※本研究は JSPS 科学研究費補助金 22K00511 の助成を受けたものです。

る．『漢西字典』所収「斥」字に“estender”（広げる，拡大する）の意味があり，これに基づき“entendex”を誤記とみなし，該当字を「斥」とする．

43)　原文は“auientar”．いま『漢西字典』所収の「驅」字に意味として“auientar”を記載するのに拠る．

44)　原文は“echax fuexa”. Varo の語彙集に“echar fuera”の項があり, 例として“趕他去，逐去，投去”が記される．W South Coblin（2021）Vol. 1，p.221．また『漢西字典』の“k’iù・”に「去」字を収め，意味に“echar”とある．

45)　原文は“abatir”．『漢西字典』の“k’iǔ・”に「屈」字を収め，意味に“abatir”などとあるのに拠る．